



産直ニュース（農・畜・水産）17週号



生活クラブの産直材は、より美味しくより安心して頂ける様に生産者を指定しています。このため、天候・生育状況等によってはお届け週が予定変更になる場合や、緊急にお知らせが必要な場合もありますので、本ニュースで産地の状況をお知らせします。

生活クラブ関西

*納品書「次週以降のお届け」が上手く機能していません。果物類お届けは下表をご参考にして下さい。

今後のお届け品スケジュール

単協 支所	大阪					京都		奈良	滋賀
	茨木	豊能	香里	門真	平野	西	東	奈良	滋賀
17週	河内晩柑③					パイナップル(ボゴール種)①			
	いちご(3次)A登録		予約いちご(3次)⑤						
18週	河内晩柑④								
	パイナップル(ピーチ種)②								
19週	小梅			河内晩柑⑤					
	イエローキングメロン			パイナップル(ボゴール種)②					
20週	河内晩柑⑥								
	小玉すいか①(!)			パイナップル(ピーチ種)③					

*(!)は調整の可能性有ります。

お知らせ 産地情報

■各地で凍霜害発生!

今年は全国的に桜の開花も早く、ほとんどの果樹の開花は平年よりも10日から2週間程度早まる見通しとなっていました。開花時期が早まると戻り寒波による被害リスクが高くなり、各産地で神経をとがらせていた矢先、4月8日~10日にかけて冷え込みにより多くの果樹で凍霜害が発生しています。

◆さくらんぼ(米沢郷牧場:山形県)

本ニュース14週でお知らせしましたが、米沢郷牧場のさくらんぼ開花は戻り寒波が発生する直前の4月7日頃にはチラホラと花が咲き始めていました。

多くの品種では早生種よりも晩生種の開花が早く、さくらんぼでは晩生の紅秀峰の開花が先に始まっています。寒波のタイミングにより、ちょうど開花が始まった紅秀峰ではほとんどの花のめしべが凍結することで、受粉がかなわない状態(実が着かない)となりました。

開花前のつぼみが膨らんだ状態だった佐藤錦でも同様の被害が見られ、生産者は残った花に懸命の受粉作業を行い、少しでも着果を確保することに努めているとの事です。

◆りんご(八ヶ岳会:長野県)



長野でも同時期に低温による被害が見え始めました。4月10日時点では開花はまだ先で蕾状態のりんごでしたが、しばらくして咲き始めた花を見ると中心花の多くでメシべが枯死していることが確認されています。

写真の花、中央のめしべが茶色く褐変しているのがわかるでしょうか?

この様に、厳しい低温や霜にさらされることで受粉が出来なくなってしまいます。

りんごの場合、一つの花そうで5~6の花が咲きますが、真ん中にある中心花が先に開花し、まわりにある側花が少し遅れて開花していきます。

中心花に実が着かなくても側花に実が着けばりんごは出来るのですが、側花の実果形が

良くなかったり(変形等)サビが出やすかったりするので、りんごは中心花に実が着くのが理想的なんです。でも多くの中心花がダメになった事で、今後はできるだけ側花にも丁寧に人の手で花粉をつけて回り、着いた実の中で最良のものを残す摘果作業に専念することとなります。

◆20世紀梨(倉吉市果実農業協同組合、久美浜 Joy Fruit、中吉野産直組合)

20世紀梨は4月初旬が受粉作業のピークで、受粉後1週間してからの寒波(長野や東北ほど低温ではなかったそうですが、鳥取・京都・奈良でもマイナス気温となったようです)だったため、現時点では目に見えた被害は出ていないそうです。しかしながら、20世紀梨の後に開花した赤梨系(幸水・豊水)ではさくらんぼ同様に大きな被害が見られるとの事でした。